

「目指せIPO」への道 特別座談会



出席者

藤岡康代氏
▶FUNFAM株式会社
代表取締役

広野道子氏
▶21LADY株式会社
代表取締役社長/CEO

山川景子氏
▶イグレス株式会社
代表取締役

藪野真紀子氏
▶株式会社WSP
取締役

訪日旅行者の急増で、メイドインジャパン、日本のものづくりの注目度が高まっている。女性とどの家族が豊かさを感じる商品やサービスに実績とノウハウを持つ21LADY株式会社代表取締役社長（CEO）の広野道子氏を招き、ものづくりに携わる女性経営者3人と、ものづくりの可能性を語り合った。

生活者の視点が生きる オリジナリティのものづくり

広野 最近思うのは日本でのものづくりが見直されているということ。外国の方が日本の物を買いたいと日本にやってくる。また、日本のお菓子を海外に輸出してほしいということもあります。日本企業は、ここ数年、価格競争力のある中国やアジアの工場へのものづくりをしてきました。でもここに来て、日本の丁寧なものづくりが海外から評価され、企業の製造現場も日本帰朝の高まっています。

山川 うちはホテルの客室のアメニティを企画し、デザインし、生産し、納品しています。インバウンドによる観光ブームで、4年くらい前から

先輩IPO企業

21LADY株式会社

COMPANY PROFILE

代表者 ▶代表取締役社長/CEO 広野道子（ひのくみ・おちこ）

業種 ▶ライフスタイル産業の総合支援事業、ヒロタ事業（洋菓子店ヒロタ）、イルムス事業（イルムスジパンバ）

設立 ▶2009年3月

上場 ▶2014年10月（名古屋証券取引所）

資本金 ▶1億6000万円

売上高 ▶28億円（グループ年間、2015年3月期）

従業員数 ▶159名（グループ全体、2015年3月末）

所在地 ▶東京都千代田区二番町5-5 番房 フォーティスビル5F

電話 ▶03-3556-2121

URL ▶http://www.21lady.com/

ホテル業界はバブル状態です。新規の会社からの問い合わせも、この1、2年で急激に増えました。でも、新規の仕事を増やすことによっても、これまでのうちの商品の持数が多いか、多くのお客様から御伺いいただいたりするうちのものづくりの本筋を見誤ってしまっているはいけません。いまま、地に脚の着いたビジネスを、上肝に銘じています。

藤岡 私のところでは、日本人にない素材、竹を使って子供用の食器を作っています。嫁いだ相手があまたま家具店が3代目、国会議事堂の家具なども作る腕のいい職人を大勢抱えています。ところが日本の住宅事情から、重厚で長く使った初めてのことさがかつた家具のニーズが落ち、さらに10年く

らい前に森林伐採による環境破壊も問題になりました。そうしたなかで、竹という素材に目を向け家具を作ったのですが、うちの職人さんが手掛ける、どうしても丁寧なつくりになって、結果、かならず高値なものになってしまふ。それで、誰でもか商売にならない。これを、誰でも手に取れるものにならなくては、食器を作ってみたら伊勢丹のバイヤーの方に、「竹の食器っておもしろいね」と言っていたので、そこから始まりました。家具店の代表だった主人の父親が、「センアウトして自分たちでやってみよう」と言っていて、それで起業しました。

藪野 うちはとももと既製の卸売業で、25年前に現在の代表、代表取締役役渡邊雅夫氏が立ち上げた会社です。いずれ御社だけでは厳しくなるからと、15年くらい前から私と女性スタッフの2人でオンラインショップをスタートしました。当時、真珠のオンラインショップは珍しかったのですが、最近では新規参入が増え、価格競争もたいへんです。ネットで価格を見ただけでは、なかなか真珠の質の違いはわかりません。値下げ競争に巻き込まれないように、長くオンラインショップを運営し、大きく安心感を前振りに選ばれているという安心感をお客に出し、オリジナリティのある商品の開発と販促にこだわり、他社との差別化につながるよ

"こだわり"と、 次世代への橋渡し。 ものづくりの可能性を見直し、 100年企業を目指そう



代表取締役社長/CEO 広野道子

うなブランドイメージを構築していただきます。

**ものづくり企業が直面する
今の時代ならではの課題**

藤岡 一時は、途中までは中国で加工、最終加工を国内でやることも考えました。でもうちの商品は、8割くらいが仕入れお祝いやお慶賀品で選んでいただきます。購入される方にこれはどうも作っている日本です」と聞かれ、「最終加工は日本ですが、途中までは中国です」と言われ、さと引かれてしまいました。思い、日本を回って竹細工の職を探し、チームを作ったのです。ところが見つけた職人さんには「こんな業界売れてくんだ」というネガティブな方が多くて、でも、それでもがんばっていきましょうよ」とつて、職人さんのモチベーションを高めていく、結果的にはすべてを国内生産にしています。

それから、これからチャレンジしようとしているのが、メイドイン・トウキョウ。日本というカタゲを超越、東京の竹を扱って、実現したいと思っています。

広野 それはすごい。メイド・イン・トウキョウで作れるものってなかなかないですよね。

藪野 うちのよなネットショップの場合、商品イメージのコピーが簡単に

単にできてしまいます。ときには丸パクリじゃない」と思うようなものがあっても、しかもより安い値段で売られている。品質でもどこにも負けない自信があるのに、実店舗じゃないので、お客様にその違いをどうやって伝えたいのかわからない。SNSなどの評価も気になって……。

山川 マネされる、パクられるという川は、それだけ良い商品だということです。アメニティの世界も同じようなもの。うちは半分開き直って「そこまで」マネされるを目標にしている」と言っています。

広野 ニセ物は自然と消滅していく。ビジネスとしてそのまま耐えられるからなんです。選ばれるお客様です。外野の声はあまり気にせず、お客様に信頼される商品を作り出し続けていくのが一番だと思います。

**縮小市場での生き残り
オンラインワンの強み**

藤岡 食器から食べ物というつながりから、離乳食に向けてのミルクやベビーをお母さん向けに開発するようになりまして、スーパーやドラッグストアでは軽なレトルトミルクが数多く並んでいますが、あれ食べるといいのですが、という質問をいただきます。便利な面が多いのですが、添加物が入っていないものはほとんど見かけません。それで新しい事業として、私のレシピで

マーケット創造に挑む！
女性経営者たち

100%無農薬、有機野菜の離乳食を作り始めました。今はまだ2種類ですが、今年中に6〜8種類まで増やそうと考えています。

藪野 うちでも新しい事業として「真珠で女性をキレイにする」をキーワードに、5、6年前から、真珠エキスの入ったコスメを開発して売っています。化粧品は美容成分を多くすれば効果の高いものが作れる。でも多くの場合、コストの関係でそこまで

の分重を入れられないのだからです。それで私たちは「コストは気にせず、とにかくいいものを作る」という方針で、本当に良い成分をたっぷり配合した真珠化粧品を開発しています。現在、全国の免税店におかせていただいています。日本の真珠、メイドインジャパンであるということ

で反響がとても良いです。広野 うちがこだわっているものに、今治のタオルがあります。中国製とは値段が倍以上も差がありますが、使い心地がまったく違う。幸せな気持ちに浸れますから。

今日もの皆さんは、こだわりがすごいですね。いいものはい、ダメなのはダメ。それがはつきりしていらつしやる。これからの日本は人口も増えないし、市場のバイは小さくなるばかり。その中で戦っていくは、オンラインワンの要素がないと生き残れません。でも、皆さんには共通してそれがあ

ものづくりを正しく評価し
次の世代へと継承する

藤岡 日本ってすごく技術力が高いのに、それを正しく評価できていないと思います。ろくろを回している職人さんの仕事を見た若者が、出来上がったものを見て感心しても、その一方で「これだけの仕事をして、これしかもえないの！」って思うようではダメですよ。

広野 その高い技術を、若い人たちにどうやってつないでいくかですよ。どうすれば利益を出せて、十分に食べていける仕事にしていけるか。

山川 我々のようにものづくりにこだわったところが、継続的に発注していくということではないでしょうか。私たち自身が成長していけば、ものづくりの現場も成長する。こだわりのものづくりを成長産業にしよう。

広野 地方再生が叫ばれています。日本にはいいものを作っている地域がたくさんあります。それらをもう一度世に出すことを実現する仕組みづくりが、今問われているのではないのでしょうか。みなさんの仕事は、それに大きく貢献していると思います。100年企業を目指し頑張っていきたいと思います。

※この座談会は2016年2月18日に行なわれたものです。

藪野真紀子



株式会社WSP ● 取締役

(やぶの・まきこ)三峯化学を退職後、雑貨貿易の会社を設立。インターネット創世記に真珠の通販部門の立ち上げのために、取引先であった株式会社WSPに役員として入社。ユーザービリティの高いECサイトづくりをサポート。現在は真珠化粧品開発、真珠を使ったサプリメントなどの開発にあり現場の指揮を執っている。仕事においては「妥協を許さず」がモットー。「真珠で人を美しく」をテーマに、世の中役に立つ仕事実現に向けてまい進中。

藤岡康代



FUNFAM株式会社 ● 代表取締役

(ふじおか・やすよ)全日本空輸(ANA)国際線のフライトアテンダントとして世界中を飛び回り、世界の食文化や料理を研究。子どもを授かり、今までの食生活に問題を感じるようになる。その後「母子ともに健康生活を送るようにな」というテーマで、縁起物の竹を使った食器を開発。2011年FUNFAM株式会社を設立。代表取締役に就任。また、同じ悩みを持つ同世代のママたちに向けて、離乳食スクール/キッズミールスクールの経営にも携わっている。

山川景子



イヴレス株式会社 ● 代表取締役

(やまかわ けいこ)ミニコミ誌「レディースキャンパスライフ社」を経て、フリーライターに。1990年起業。95年業務内容を変更して現在のイヴレス株式会社に。13年神戸ベイクラントホテルズタワーズに「F-Shop by IVRESSE」を出店。イギリスの老舗ブランド「ローラシュレイ」をホテルカテゴリーにおけるライセンス契約結ぶ。14年「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」に認定。週刊ホテル・レストランとの共同著書「イヴレスの仕事」など、共著多数。